県外在住のお子様を持つ保護者に読んでもらいたい新潟暮らし情報誌

新潟生活

niigata seikatsu 第23号 2014年12月発行

目次

教えて先輩! ● 新潟に住み続けることを決意
積み重ねた経験を活かしながら
特集 ● 新潟でかなえる 子育てと仕事の両立!

～お子様が帰省された際に親子で将来を話し合ってみてください～

教えて先輩! vol.43

新潟に住み続けることを決意

アートを通じた出会い

私は、人と関わるのが苦手だったので、高校時代はクラスの友達数人と話すくらいで、静かに毎日を過ごしていました。進路を決めるにあたっては、アート作品を作ることがとても好きだったこと、地域に出て活動することに興味を持ち始めていたことから、その両方を学べる新潟大学を選びました。

専攻した「芸術環境創造課程」という言葉を聞くと、難しいイメージを持たれるかもしれませんが、講義以外は市民の方とアート活動の打ち合わせをしたり、実際に開催されるイベントにスタッフとして関わるなど、実践的なことがほとんどでした。例えば、日本海夕日コンサートもその一つで、会場の砂浜を演出する作品を作り、コンサートに来たお客様の動線になるように、展示やステージの装飾に関わりました。

こうした活動により、地域の人や多くのイベントスタッフと関わる機会が増え、内向的だった私の性格を変えてくれました。

子ども達からも学びながら

新潟市中央区にある「新潟市こども創造センター」は、企画課、運営課、管理課、施設課の4つに分かれて運営しています。18歳までの方であれば、様々な作品作りを体験することができますし、対象年齢毎にプログラムを考えて対応しています。

学校とは異なり、毎回違う子ども達と接するので、毎日が発見や驚きの連続です。道具の使い方や画材の使い方もそうですし、大人では思いもよらない発想、子どもにはこんな風に見えているんだなと思うこともしばしばです。例えば、花と土の中の根を描いている子どもの姿は、知っていることをきちんと描きたいという気持ちが、まっすぐに伝わってきて感動します。

当センターは、特に自主性を大切にしているので、子ども達が作ってみたい作品を選べるように工夫しています。中には、絵を大きく描いているうちに、紙からはみ出してしまう子どももいますが、他の参加者に迷惑をかけることがない限り、自由にやってもらっています。同時に、普段、学校や家庭で一緒にいる人達だけではなく、様々な人達と関わる場所でもあるので、最低限のルールを守ってもらうようにお願いしています。

そうはいっても、実際、子ども達にとっての“自由”と“ルール”の線引きはとても難しいので、私自身、毎日勉強させてもらっています。

鈴木　美果さん（26歳）

新潟市こども創造センター勤務

新潟市こども創造センター　http://www.ikutopia.com/facilities/kodomo/

千葉市出身。高校卒業後、新潟大学教育人間科学部　芸術環境創造課程に進学。在学中にアート活動や地域活動を行う中で、地元の人との繋がりが深くなり、新潟に住み続けることを決意。大学卒業後は、「新潟市こども創造センター」に就職し、アートを通じて「生きる力」を伸ばすプログラムの企画を担当。

教えて先輩! vol.44

積み重ねた経験を活かしながら

35歳で起業

幼い頃から絵を描くのが好きで、デザイナーになるため、専門学校に進学しました。今考えると「親から離れたい」「田舎から出たい」という気持ちよりも、旅行気分だったのかもしれません。ただ、独立心が強かったので、親には、進学や就職の時も、ある程度学校や就職先が決まってから報告していましたし、学費も新聞社の奨学金制度に応募し、自分で工面しました。

専門学校を卒業後は、エディトリアルデザイナー※として、都内のデザイン事務所に就職し、ゲーム関連の雑誌を多く担当していました。当時、世の中は不景気と言われていましたが、様々な家庭用ゲーム機がヒットし、新作ゲームがたくさん発売されるほどの成長産業でした。忙しくも、楽しい日々を過ごしていたのですが、昔から独立心が強かったこともあり、35歳の時に都内で起業しました。

起業した会社は、私を含めて3人でスタートし、少しずつ仕事が増え、順調に業績が上がっていました。しかし、その矢先ちょっとした出来事がきっかけで、一気に状況が変わってしまいました。私の中では、まだまだ頑張ろうという気持ちがあった半面、ここでリセットするのもいいかなとも考えるようになり、最終的に約20年間の東京生活にピリオドを打ち、三条に戻ってきました。

三条を楽しい街にしたい

戻って来て、初めて仕事目線で三条を見たときに、何か物足りない部分を感じました。実際、私が出来そうなことが何となく分かったのですが、同時に、18歳で地元を離れたため、仕事の相談ができる相手がいないことにも気付きました。私自身を知ってもらうには、どうすればいいのか真剣に悩みましたし、正直、年齢的なハンデも感じていました。そこで、高校時代の友人に連絡を取って相談してみたのですが、いつの間にか、経営者になっていたり、会社で部下がいるなど、意思決定できる立場の人が多くなっていたことに驚きました。そして、そんな彼らからアドバイスをもらっているうちに、「年齢=経験豊富」であり、決してハンデではないと考えられるようになりました。

最近は、三条市内で行われているイベントにスタッフとして参加するなどして、もっともっと楽しい街になるようなアイディアを考えています。地域の中で、様々な人と出会いながら、自分なりに街をデザインできたらいいなと思っています。

その気になれば、何でもできるのが、生まれ育った街だと思いますし、地元とは、そういう場所ではないでしょうか。

※エディトリアルデザイナー
雑誌、本、カタログ、マニュアル本等、文章が比較的多い編集記事をデザインする仕事。誌面の美しさと読みやすさの両方が要求される。

佐藤　克昌さん（40歳）

ART Direction PICT代表

ART Direction PICT　https://www.facebook.com/adpict

三条市出身。高校を卒業後、都内の専門学校に進学。卒業してからも、都内の出版系のデザイン事務所に就職し、健康雑誌、旅行雑誌、ゲーム関連の雑誌を担当。その後、起業。そして、2年前にUターンし、現在は、三条を楽しい街にしたいという考えの基、様々な活動に携わる。

ポータルサイト「niiGET」では、「教えて先輩」で取材した方のさらに詳しい内容を公開中! アクセス ニイゲット 検索

新潟でかなえる 子育てと仕事の両立!

「子育て」は人生のなかでも大きなイベントの1つです。
どのような環境で子育てをするかは、人生設計のうえでも大事なポイントになってきます。
また、ワーク・ライフ・バランスの視点からも、子育てと仕事の両立について考えることは避けて通れません。
そこで今回は、子育てと仕事の両立を支える企業の取り組みや実際に育児休業を取得した方の体験談、
そして、県内で実施されている子育て支援サービスについてご紹介します。

仕事と子育ての両立を目指して

新潟市東区

一正蒲鉾株式会社
http://www.ichimasa.co.jp/

取締役 管理部長
滝沢 昌彦 さん

『いちまさ保育園ちびっこランド』開設の経緯

当社の社員は約7割が女性ですが、今から20年以上前は、入社した女性社員の多くが結婚や出産を機に退職していました。そのため、その都度新たに社員を採用しなければならなかったのですが、繁忙期限定のパート社員の募集でさえ、「子どもが小さい」「保育料が高くて預けることができない」などの理由から、ほとんど応募者がいないということも珍しくありませんでした。

そこで、女性の人材を確保するため、「女性が働きやすい魅力ある職場」「働き続けることができる職場環境」を目指し、平成2年に、事業所内保育所『いちまさ保育園ちびっこランド』を開設しました。保育園は保育士6名、調理師1名の体制で、定員は約50名となっており、当社の社員であれば雇用形態にかかわらず、無料で利用することができます。

ほかにも、育児休業を取得している女性社員と連絡を取る担当者を本部に配置し、定期的に会社の様子を伝えるようにしています。この取り組みは、一定期間会社から離れていることによる不安や孤独感を緩和し、スムーズに会社復帰してもらえるように始めたものです。また、復帰後は、本人の希望に添った働き方ができるように、配属先や勤務時間などにも配慮しています。

時代の変化に対応しながら

従来は、女性の人材確保が主な目的でしたが、近年は全社員が仕事と育児を両立できる職場環境づくりに取り組んでいます。

男性社員に対しては、出産時に立ち会えるように有給休暇取得を奨励していますし、男性社員が育児休業を取得した実績もあります。また、現在、半日単位の有給休暇について、導入を検討しているところです。導入が決まれば、例えば午前中に仕事をして、午後から子どもの授業参観に参加することも可能になりますので、うまく活用してもらいたいと思っています。

最近は、採用活動で企業説明会を実施すると、特に女子学生から、子育て支援に関する質問を受けることが多いので、当社の取り組みを大いにアピールしています。実際、子どもを預けることができるから、当社を選んだという女性社員もいますし、結婚・出産を機に退職する社員はほとんどいなくなりました。

会社概要：昭和40年設立。蒲鉾など水産練製品と舞茸の製造販売等を行う。社員の子育て支援にも力を入れており、平成2年には、県内製造業初の事業所内保育園を開設。また、平成19年に次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を国に提出し、県内認定企業第1号となる（認定マークの愛称「くるみん」）。こうした取り組みが評価され、平成24年には子ども若者育成・子育て支援功労者表彰の「内閣総理大臣表彰」を受賞。

確かにコスト面での負担はありますが、それ以上に効果の方が大きいと感じていますので、できる限り継続して取り組んでいきたいと考えています。

従業員の梅田道子さん
（「いちまさ保育園ちびっこランド」卒園者であり、お子様も在園中）

企業内保育園が開設されているのは、とても良いことだと思います。私自身、安心して職場復帰できましたし、子供も保育園で楽しく過ごしている様子なので、非常に恵まれた環境だと感じています。当社に入社し、お子様を持った際は、是非保育園を利用しながら働き続けてもらいたいと思います。

妻の安心感のために

長岡市

株式会社ジェイマックソフト
http://www.jmacsoft.co.jp/

SI事業部第三システム部
富樫 誠一郎 さん

村上市出身。県内の大学を卒業後、システム開発を行う（株）ジェイマックソフトに入社。その後、結婚し、3人の子宝に恵まれる。第二子誕生後は2ヶ月間、第三子誕生後は1ヶ月強の育児休業を取得するなど、積極的に家事・育児に参加。職場復帰後も、仕事と家庭を両立。

育児休業を取得

結婚後は、妻の実家がある三条市内で暮らし始め、しばらくして、第一子が産まれました。ただ、当時は、東京都内での仕事を抱えていたため、平日は東京に滞在して、休日だけ帰宅するという生活でした。実際、物理的に家事・育児に参加することが難しく、妻にとても苦労をかけていたと思います。

その後、ようやく長岡市で腰を据えて勤務できるようになり、一昨年に第二子、今年は第三子が産まれたので、思い切って育児休業を取得しました。私の両親は村上市に住んでいましたし、妻の両親も現役で仕事を持っていたため、自分達でこなさなければならない状況だったこともあります。しかし、一番の理由は、私が家事・育児に参加することで妻の安心感につながると考えたからです。

会社や周囲の反応

会社では、これまでに男性が育児休業を取得した例はありませんでしたので、上司に伝える時は、少し緊張しました。しかし、いざ伝えると、こちらが拍子抜けするほど、すんなりと受け入れてもらいました。ちょうど、「イクメン」という言葉がメディアに取り上げられ、世間に認知されるようになっていたことや、会社が仕事と家事・育児の両立に力を入れ始めたタイミングだったこともあると思いますが、とてもありがたかったです。

実際、育児休業の開始時期を考慮した仕事内容やスケジュールに調整してもらうなど、会社の上司や同僚から、とても温かい支援をしていただいたと感じています。

こうした職場環境を友人に話すと「うらやましい」と言われますし、私自身、本当に恵まれていると思っています。

自分から進んで動く

育児休業期間中は、会社から仕事の連絡はなく、メールで事務手続き上のやり取りをしただけだったので、100%家事・育児に専念することができました。

私は学生時代に一人暮らしの経験があり、何でも一通りはできたので、できるだけ妻に聞かずに、自分で考えて動くように心掛けていました。

家事・育児は、それほど苦ではなかったのですが、おむつ替えや子どもが汚した後片付けなど、次々とやることが出てくるので、1日があっという間に過ぎていきました。慌ただしい毎日でしたが、妻からは「とても助かった」と感謝してもらえたので、とても良かったと思います。

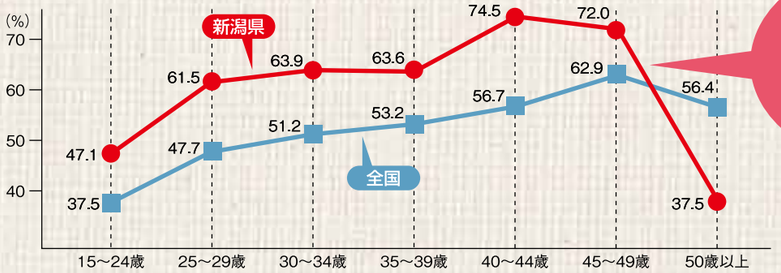
男性の家事・育児の参加

私の場合は、1～2ヶ月間だったので、復帰後の不安はありませんでしたし、身体も復帰してから2～3日すれば、すぐに慣れました。ただ、仮に女性が1年間育児休業を取得してから職場復帰となると、精神的、体力的にとても大変だろうなと感じます。

しかし、だからこそ男性が家事・育児に積極的に参加しながら、お互いが安心して仕事と家事・育児を両立できる環境作りが重要だと思います。そうすることで、女性が2人目や3人目を産もうと思えるようになり、良い循環につながっていくのではないでしょうか。

育児をしている女性の有業率

総務省「平成24年就業構造基本調査」



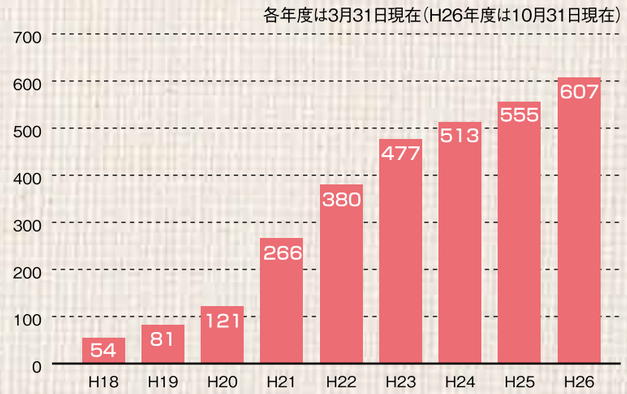
子育てと仕事を両立させている女性の割合は、ほとんどの年代で全国平均を上回っています。

ハッピー・パートナー企業とは…

新潟県では、男女がともに働きやすく、仕事と家庭生活等が両立できるよう職場環境を整えたり、女性労働者の育成・登用などに積極的に取り組む企業等を「ハッピー・パートナー企業（新潟県男女共同参画推進企業）」として登録し、その取り組みを支援しています。

新潟県 ハッピー・パートナー企業

ハッピー・パートナー企業登録数（累計）



今回ご紹介した一正蒲鉾株式会社、株式会社ジェイマックソフト、グローカルマーケティング株式会社はハッピー・パートナー企業に登録しています。

ポータルサイト「niiGET」では、UIターンに関する多くの情報を提供しています。 アクセス ニイゲット 検索

子育て世代と企業をつなぐ

長岡市

グローカルマーケティング株式会社

「トキっ子くらぶ」ホームページ　https://tokicco.net/

代表取締役
今井　進太郎 さん

長岡市出身。大学卒業後、東京都内でのマーケティング会社勤務を経て、Uターン。平成18年に起業し、「マーケティング支援事業」と「子育て支援事業（トキっ子くらぶ）」に取り組む。平成25年には実家の「建材事業」を経営統合し、会社名を「グローカルマーケティング株式会社」と改称。現在、「トキっ子くらぶ」は会員世帯数が約80,000世帯、サポート店は750店舗を超えている。

きっかけは「子育てにかかわりたい」という思い

大学を卒業してからは、東京都内でマーケティングに携わる仕事をしていました。東京では3年間勤務しましたが、その中で、マーケティングを通じて新潟の中小企業を支援したい、新潟の魅力を発信するお手伝いがしたいと思うようになり、Uターンを決意しました。

2006年に起業したのですが、準備を進めるうちに、マーケティングに加えて「子育て支援」についても考えるようになりました。きっかけは、私自身に子どもが産まれることになり、子育てにかかわりたいと思うようになったからです。「子育て」について、自分に何ができるかを考え、最終的に民間企業が積極的に子育て支援に参加し、社会全体で子育てを支援する仕組みをつくろうというアイデアに至りました。そして、マーケティングの仕事を通じて多くの会社やお店とつながりができていたこともあり、2007年から、子育て家庭優待カードの発行、無料情報誌の発行、イベントの企画・実施などを展開する「トキっ子くらぶ」に取り組み始めました。

ポイントは父親の子育て参加

これからの社会では、仕事と子育ての両立を考えることが大切ですが、両立を進めていくうえで、ポイントとなるのは、父親の育児参画だと思います。「トキっ子くらぶ」でも、男性の育児休業取得者に特典をプレゼントする「トキパパ応援団」を企画するなど、父親が育児休業を取得することの応援に力を入れています。

最近の子育て家族を見ても、父親が「育児をする」という意識は強くなっていると思います。また、社会全体でも、父親の育児参画に少しずつ理解が進んでいると感じています。「トキっ子くらぶ」でも、情報誌「トキっ子ラウンジ」やホームページなどの情報発信を通じ、男性の育児参画に対する意識を少しでも高めようと取り組んでいます。特に、男性の育児休業取得者がもっと増えて欲しいという思いがあります。数日間の育児休業の取得であっても、父親が子育てに向き合う時間をつくることは意義があると思うので、これからの若い人達には積極的に考えて欲しいと思います。

生活に密着した「トキっ子くらぶ」を目指して

ある飲食店では、会員証を提示してサービスを受ける人が1ヵ月に300件程度あるということで、「トキっ子くらぶ」が浸透しているという実感があります。今後は、「トキっ子くらぶ」がより子育て世帯の生活に密着した存在になりたいと考えています。例えば、地域の医療機関やお出かけの参考になるイベント情報など、子育てに必要な情報を、まずは「トキっ子くらぶ」のホームページで探してもらう、という存在になれればと思います。

子育て支援に携わっているからには、子育て家庭の声を企業やお店に届け、子育て環境の改善につなげる役割を果たしたいと思っています。あくまでも、優待カードが利用できるサービス店になってもらうことはきっかけに過ぎません。その後に、こちらから子育てをする人たちの目線で事業内容を提案し、企業や店舗から子育て環境づくりに貢献してもらうことが私たちの役目だと思っています。

Uターン情報誌

「新潟生活」と「新潟Uターン情報」をセットで**無料送付**しています。

新潟生活
- 新潟にU･Iターンした先輩の体験談
- 新潟の豊かな暮らしや魅力的な仕事の紹介
- など

新潟Uターン情報
- 新潟県内企業の紹介
- 就職活動の動向
- 就職ガイダンスのお知らせ
- など

送付をご希望の方は、ニイゲットでお申込み、又は新潟県県民生活課までお問い合わせください

新潟くらしのポータルサイト nii GET（ニィ ゲット）もご活用ください

http://www.niiget.jp

- **ニイガタビト**
  週替わりで「新潟人」にフォーカスした特集を掲載しています
- **オススメ情報**
  新潟のグルメ・イベントなどの口コミ情報を週5回お届けします
- **注目情報**
  長期にわたって開催されるイベントや、参加募集についてお知らせします
- **新潟トピックス**
  新潟県内の社会・経済情報を見ることができます

お申し込み・お問い合わせ

新潟県県民生活課
〒950-8570　新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112（直通）